



「新病院建設基本構想策定業務」に着手しました

「広報さんようおのだ」7月15日号でお知らせしたとおり、今年7月6日、山陽小野田市の地域医療のあり方を踏まえ、新病院に関する事柄について協議を行っている「山陽小野田市新病院建設構想検討委員会」(砂川 功委員長)から、新病院の建設の必要性について、中間答申が市長に提出されました。

この答申を受け、市病院局では「山陽小野田市新病院建設基本構想策定業務」に着手しました。

新しい時代にふさわしい新病院は、今後の山陽小野田市民病院の目指すべき医療と市民の多様な医療ニーズに対応し、市民の安心・安全を支え信頼される病院としての役割を果たすことを目的としています。

そのため、新病院の基本構想策定業務の業者の選択にあたっては、指名競争方式ではなく、柔軟かつ高度な発想力・設計能力、豊富な経験を求めたく、プロポーザル方式を採用しました。

このプロポーザル方式は、病院局が提示する課題に対し、指名された業者は発想や解決方法などの提案を行い、これらを審査して、最も適切な想像力、技術力、経験などを総合的に判断して、基本的な構想を練るための契約相手を選ぶ方式です。

今回、新病院建設の基本構想策定については、病院設計や病院経營業務に全国的に高い実績のある複数の業者に対し提案を依頼しました。

今後、この提案書の審査を行い、最も評価の高かった業者と契約し、新病院建設のための基本構想の策定を依頼する予定です。

なお、審査員は医療関係者をはじめ、建築などの学識経験者、市民代表等、約20名で構成しており、契約の相手は12月末までに決まります。

契約の相手が決まると、業務は来年の1月に着手し、3月末には「山陽小野田市新病院建設基本構想」が策定されます。

ひとひと 女と男の行詩

- 「熟年離婚」 テレビみていたその日から
夫 いそいそ家事手伝い
- エプロンの似合う夫を見つめる日
惚れ直したか 妻赤ら顔
- 定年を境に 妻は元気に外出 そして 見送る夫
- 生きがい活動 あか紅組優勢 こうき光輝高齢 頑張れ白組
- 語り愛 助け愛 いたわり愛で 五十年

高齢化が進み寿命が延びて、夫の退職後、夫婦だけで暮らす時間が長くなってきています。

第二の人生を迎えるに当たっては、従来の肩書きにとらわれることなく、身近な人達とのコミュニケーションを図り、男女にかかわらず互いに対等であるという男女共同参画の視点をもってあらゆる分野へ参画していくことが大切なのではないでしょうか。